

産業廃棄物 処理計画書記載例

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成27年6月30日

千葉市長 殿

提出者

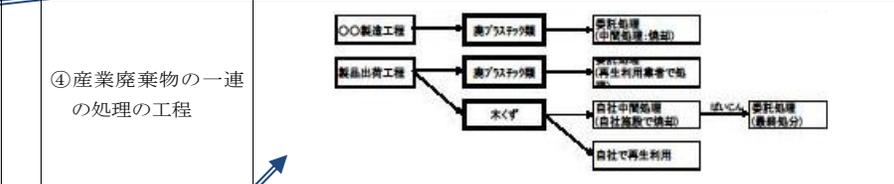
住所 千葉県千葉市中央区〇〇町1-1
氏名 〇〇株式会社
代表取締役 千葉 一郎
電話番号 043-123-4567

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	〇〇株式会社 千葉工場
事業場の所在地	千葉市中央区〇〇町1-1
計画期間	平成27年4月1日から平成28年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	大分類：製造業 中分類：プラスチック製品製造業 小分類：工業用プラスチック製品製造業
②事業の規模	前年度の製造品出荷額 103億円
③従業員数	980人(正社員820人、常勤関係職員160人)



(日本工業規格 A列4番)

事業場の名称には産業廃棄物(特別管理産業廃棄物)を実際に排出している事業場名(建設業の場合は支店名等)を記入してください。

建設業で事業場の名称を支店等にした場合は、支店等の所在地を記入してください。

処理計画はその年の4月1日から翌年の3月31日までの計画を記載してください。

日本標準産業分類上の業種(小分類まで)を記入してください。

該当する事業場又は支店等の正社員及び常勤関係職員数(医療機関の場合は医療従事者及び非医療従事者数)を記入してください。

廃棄物の発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む)を記入してください。

法人の名称及び法人の代表者又は処理計画書の作成単位である事業場代表者等について正確に記入してください。
※代表者印等の押印は不要です。
(印影がそのまま公表されます。)

事業の規模については下表の業種は表の記入内容の事項を記載し、それ以外の業種の場合は売上高など事業の規模が分かるものを記載してください。

大分類	中分類	記入内容
建設業	全て	元請完成工事高
製造業	全て	製造品出荷額
電気・ガス・熱供給・水道業	電気業	発電量
	水道業	処理能力量
医療・福祉	病院	病床数

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項
(管理体制図)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（平成26年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類 木くず
	排出量	1,000 t 5 t
(これまでに実施した取組) H20に製造工程を見直し、製造量あたりの廃棄物排出量を、10パーセント削減している。		
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類 木くず
	排出量	995 t 5 t
(今後実施する予定の取組) 製造工程の見直しを継続するとともに、製造量に併せて製造ラインの効率的な運用を図り、廃棄物の排出抑制を行う。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 木くず：出荷過程で生ずる廃木製パレットは、再度パレットに使用できる部材を選別している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類：プラスチックの種類ごとに分け、原材料として再生利用できるものを分別する。

取組内容については、現在実施している取組の内容を具体的に記載してください。
(以下、分別、自ら処理及び委託処理に関する事項についても同様)

計画については、当該処理計画書の計画期間で自ら取組み、及び将来的に実施する予定のある場合はその取組内容について具体的に記載してください。
(以下、分別、自ら処理及び委託処理に関する事項についても同様)

産業廃棄物管理体制について、処理計画の総括責任者、処理計画作成部署等がわかる組織図を記入してください。

産業廃棄物の種類ごとに前年度の実績値を記入してください。(記入例では2種類を記載していますが、産業廃棄物の種類が3種類以上ある場合は当該欄に「別紙のとおり」と記載し、別紙を添付してください。(以下同様)

産業廃棄物の種類ごとに、当該計画書の計画期間における目標量を記載してください。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（平成26年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
	出荷過程で生ずる廃木製パレットは、再度パレットに使用できる部材を分け、木製パレットに再生している。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	2 t
	(今後実施する予定の取組)		
	廃プラスチック類について、H24年度から、種類が混ざった廃プラスチックの再利用技術に関する研究を実施し、今後の実用を図る。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（平成26年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	2.5 t
	(これまでに実施した取組)		
再生利用ができない木くずについて、H18に焼却施設を設置し、焼却処理している。 既存の焼却施設で熱回収は行っていない。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	3 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	2.5 t
	(今後実施する予定の取組)		
自社の焼却施設について、排ガス処理工程に熱交換器を新たに設け、生産施設のための温水として利用する。			

自社で直接(中間処理を行わず)再生利用した産業廃棄物及び自社で中間処理した後に自社で再生利用した産業廃棄物について記載してください。

自社の焼却施設で熱回収(燃烧できる廃棄物を熱を得ることに利用すること)を行っている場合は、熱回収に利用した廃棄物の量を記入してください。(焼却前の重量を記入してください。)

焼却・脱水等の中間処理によって、廃棄物の重量を減らした場合は、減らした重量を記入してください。(中間処理前の重量から中間処理後の残量を引いた数量を記入してください。)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（平成26年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
	これまでに、自社で埋立処分又は海洋投入処分を行ったことはない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		
	引き続き埋立処分又は海洋投入処分する予定はない。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（平成26年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず
	全処理委託量	1,000 t	0.5 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0.5 t
	再生利用業者への処理委託量	50 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	50 t	0.5 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
(これまでに実施した取組)			
廃プラスチック類の内、出荷工程から生じたものは、プラスチック製品として再生利用ができる委託業者に処理を委託し、焼却する場合は熱回収の認定を受けた処理業者へ委託している。			

自社で直接(中間処理を行わず)行う産業廃棄物の自社の処分場への埋立処分又は海洋投入処分した産業廃棄物及び自ら中間処理した後に自社で行う産業廃棄物の自社処分場への埋立処分又は海洋投入処分した産業廃棄物について記載してください。

平成23年4月から認定が開始された**優良認定処理業者**へ委託を行った場合に記載してください。

平成23年4月から認定が開始された**認定熱回収業者**に処理を委託した産業廃棄物について記載してください。

再生利用業者へ処理を委託した量について記入してください。

認定熱回収業者以外の、熱回収を行っている業者に委託して熱回収を行った場合の処理委託量を記入してください。

委託先の処理業者が優良認定処理業者や認定熱回収業者に該当するかについては、認定書や委託契約書等で確認してください。

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	木くず
	全処理委託量	995 t	0.5 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	955 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	955 t	0.5 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>廃プラスチック類の再生利用ができる処理業者への委託を目指す が、焼却処理する場合においても熱回収の認定を受けた処理業者へ 委託を行う。</p>		
※事務処理欄			

産業廃棄物 処理計画実施状況 報告書記載例

様式第二号の九(第八条の四の六関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

平成27年6月30日

千葉市長 殿

提出者
住 所 千葉県千葉市中央区〇〇町1-1
氏 名 〇〇株式会社
代表取締役 千葉 一郎

電話番号 043-123-4567

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、平成26年度の産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

事業場の名称	〇〇株式会社 千葉工場		
事業場の所在地	千葉県千葉市中央区〇〇町1-1		
事業の種類	大分類：製造業 中分類：プラスチック製品製造業 小分類：工業用プラスチック製品製造業		
産業廃棄物処理計画における計画期間	平成26年4月1日から平成27年3月31日		
産業廃棄物処理計画における目標値			
項目	目標値	項目	目標値
排出量	1,100 t	全処理委託量	1,095 t
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	優良認定処理業者への処理委託量	1,095 t
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	再生利用業者への処理委託量	1,095 t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	2.5 t	認定熱回収業者への処理委託量	5.0 t
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t
※事務処理欄			

法人の名称及び法人の代表者又は処理計画書の作成単位である事業場代表者等について正確に記入してください。
※代表者印等の押印は不要です。(印影がそのまま公表されます。)

事業場の名称には産業廃棄物(特別管理産業廃棄物)を実際に排出している事業場名(建設業の場合は支店名等)及び代表者名を記入してください。

所在地には、事業場又は支店等の所在地の住所を記入してください。

日本標準産業分類上の業種を小分類まで記入してください。

目標値については、前年度に提出した産業廃棄物処理計画書に記載した目標値を記入してください。

当該事業場から発生した産業廃棄物の量のうち、中間処理をせず直接自社で再生利用した量を記入してください。

前年度の実績値を記入してください。(産業廃棄物の種類が2種類以上ある場合は種類ごとに1枚ずつ作成してください。)

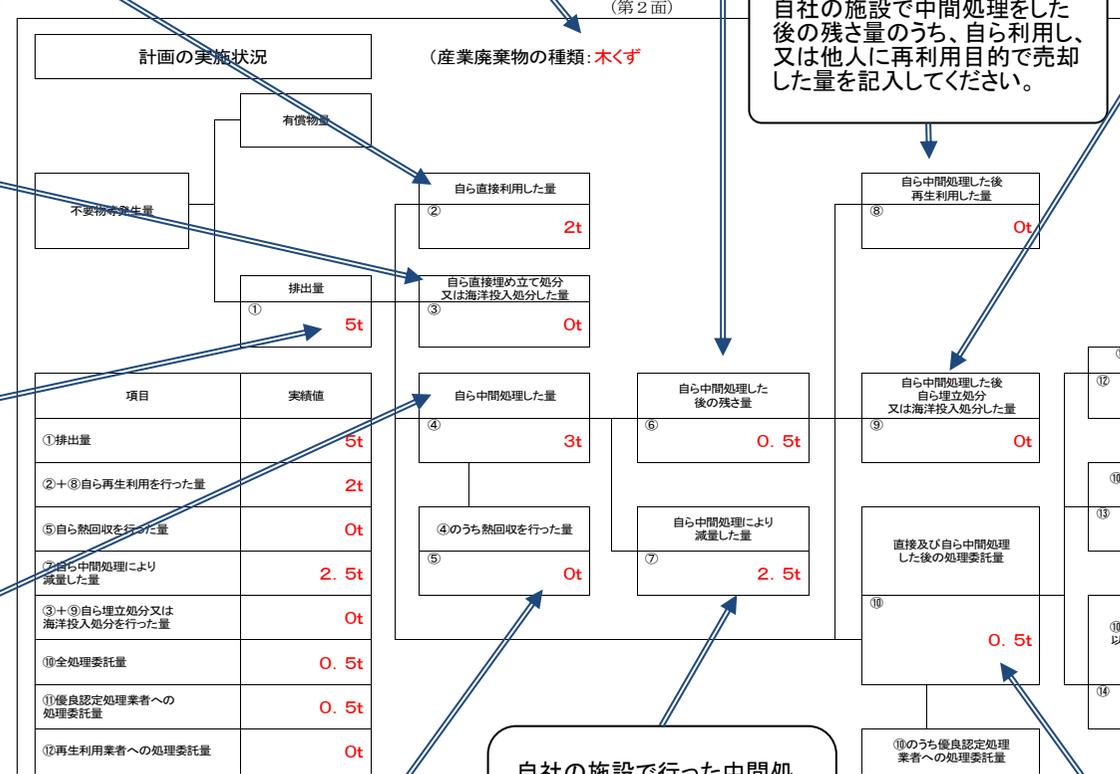
産業廃棄物を自社の施設で中間処理をした場合、処理後の残さを記入してください。

自社の施設で中間処理をした後の残さ量のうち、自社の最終処分場に埋立処分又は海洋投入処分した量を記入してください。

当該事業場から発生した産業廃棄物のうち、中間処理をせず直接自社の最終処分場に埋立処分又は海洋投入処分した量を記入してください。

当該事業場から発生した産業廃棄物の総量を記入してください。

当該事業場から発生した産業廃棄物のうち、自社の施設で中間処理をした産業廃棄物の総量を記入してください。



自社の施設で中間処理をした後の残さ量のうち、自ら利用し、又は他人に再利用目的で売却した量を記入してください。

中間処理及び最終処分を産業廃棄物処理業者に委託した量のうち、再生利用者へ委託した量を記入してください。

中間処理及び最終処分を産業廃棄物処理業者に委託した量のうち、平成23年度から認定が開始された認定熱回収施設設置者へ委託した量を記入してください。

中間処理及び最終処分を産業廃棄物処理業者に委託した量のうち、認定熱回収施設設置者以外で、熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量を記入してください。

自社の施設で行った中間処理により減量化した量を記入してください。(④欄から⑥欄を引いた量が入ります。)

中間処理及び最終処分を産業廃棄物処理業者に委託した量を記入してください。

自社の施設で中間処理をした産業廃棄物の量のうち、自社で熱回収を行った産業廃棄物の中間処理前の量を記入してください。

中間処理及び最終処分を産業廃棄物処理業者に委託した量のうち、平成23年度から認定制度が開始された優良認定処理業者へ委託した量を記入してください。